

平成28年度町長との対話集会 会議録

日 時	平成28年6月9日(木) 19:00 ~ 20:55
会 場	商工会館
町執行部	小谷町長、石井副町長、小野瀬町長公室長、小川まちづくり推進課長、米川福祉課長、佐藤こども課長、砂野参事、海老澤町長公室補佐
議 員	坂本議員、柴田議員
出席者	81名

- 町 民
- ・ 駅前海岸線のポケットパークに公衆トイレを設置すると説明を受けたが、再考いただきたい。
 - ・ 公衆トイレは、臭い・暗い・浮浪者が住み着くといった悪いイメージがあり、人が住む真ん中に設置するものではないと思う。
 - ・ 設置は国費とはいえ、維持管理費は町税から賄われることになる。道路整備前のワークショップでも公衆トイレの話は出たが、トイレは駅とマリインタワーにもある。わずか500メートルの間にそんなに必要なのかという意見が出ていた。1日当たり何人が利用するという費用対効果などきちんと考えているのか。
- 町 長
- ・ 大洗町は観光の町にも関わらず公衆トイレが少ないとの意見を頂いており、公衆トイレのあり方については、今年度調査研究をして、然るべき方法を決めていく考えでいる。
 - ・ 先行して駅前海岸線については、ポケットパークが出来るので、公衆トイレがあったらどうかというものであるが、場所はもう一度、よく再考する。
- 町 民
- ・ 避難道路に関して、真夏の最盛期には1日当たり5万人来町し、97～8%が自家用車で訪れた場合、津波で一斉に逃げても渋滞なく逃げ切れるのか。
 - ・ 避難タワーは1ヶ所のみなのか。複数設置する予定はあるのか。
- 町 長
- ・ 有事の際は、「車には乗らずに歩いて高台へ」を基本としており、海水浴客にもチラシを配布し啓発している。
 - ・ 東日本大震災ではフェリーターミナルの屋上に避難している方も相当いた。町が高台避難所に指定している場所へ逃げられない場合に備え、海岸線にある津波に耐えうる高いビルを、避難出来る場所に指定することも検討している。
- 町 民
- 高齢者や障害者の避難体制についてはどう考えるか。

- 町 長 いわゆる要援護者の避難については、コミュニティ防災力に頼らざるを得ないと考えている。向こう3軒両隣りの連携を密にして、近所の方々とコミュニケーションを図って頂きたい。
- 町 民 防潮堤について、町の要望が受け入れられるように県に対して署名活動をする予定はないのか。
- 町 長 署名は集めていない。県は非常に難色を示していたが、ようやく検討させることが出来た状況にある。
- 町 民 防潮堤の高さは想像がつかないが、どうなるのか。
- 町 長 有事の際にも道路を使えるよう道路海側の植栽帯に設置する必要がある。高さ2mの予定なので、アウトレット1階からは海が見えなくなるが、2階からは海が臨めると想定している。
- 町 民 県の防潮堤説明会に出席し、その資料を基に町内会の総会で意見を求めたところ、防護ライン1（海に一番近いライン）が町内会の総意であった。
- 町 長 めんたいパーク前までの商業地域は県の防護ライン1を採用し、漁港地区は、岸壁と南防波堤の間に水門を設置することで対応していきたい。現在の環境を守る方向で県に対して引き続き要望していく。
- 町 民 自分の孫一家が東京から大洗へ移住してきた。孫のお嫁さんは、見知らぬ土地で話し相手もなく沈んでいたが、親子ふれあいセンター「きらきら」が出来たお陰で、友達もできて明るくなった。とても感謝している。
- 町 長 旧亀宗跡に一時避難所として整備したものであるが、平常時は親子ふれあいセンターとして活用している。かなり盛況と聞いている。町民の皆さんにも宣伝をお願いしたい。
- 町 民 原子力研究所の今後について伺いたい。
- 町 長 3つの原子炉を持つ日本原子力研究開発機構は、独立行政法人から国立へ変更となったこともあり、ミッションがより明確となった。新規制基準に適合後はしっかり立ち上げていきたい。JMTR

はモリブデン99による核医学の展開、HTTRは水素の製造プラント、常陽は核燃料サイクル技術者の育成が役割となっている。

町 民 震災があった際には、福島第一原発のような放射性物質の漏洩はないと考えてよいのか。

町 長 福島原発事故の原因のひとつは津波の防護が万全ではなかった結果であると認識している。新規制基準では津波を十分意識しており、二重三重の対策を施す必要がある。大洗町の場合、高台にあり津波の心配はない。より安全を確保するためには、耐震性を強めることが必要になるかもしれない。

町 民 現在、大洗町の原子炉は稼働中なのか。

町 長 稼働していない。

町 民 原子力施設の松林の保全はどうしていくのか。

町 長

- ・ JAEAの敷地内の松は壊滅状態である。枯れた松の処理にも数千万かかる。松を守れなかった国・機構の危機意識のなさ訴えている。現在、植林をしている。
- ・ ゴルフ場、大洗海岸の松林は死守していきたい。

町 民 道路の下草刈りにボランティアを活用する考えはあるのか。

町 長 県も国も予算的には厳しい状況にあるが、観光客には県道も国道も関係ない。県では地域住民が清掃活動を行う道路里親制度というものがあり、大洗町では船渡地区が活動している。出来れば皆さんの力で雑草を取り除くことができると考えている。

町 民 松川地区や二葉地区で農業に地元住民を巻き込む取り組みは。

町 長 農家の方々が農業生産法人を立ち上げて、二葉なら二葉地区に農地を持っている方に参加を頂いて展開することを考えているので、地域住民は十分に関わっていく。松川地区は、夕日の郷松川周辺に7haの耕作放棄地があり、地域住民が力を合わせて農業体験、賑わいづくりエリアをつくっていかうとする取り組みである。

町 民

- ・ 常陽は冷却剤にナトリウムを使用しており水をかけられないが、消防体制は整っているのか。

- ・原子力事故の避難計画で避難すると帰って来られなくなってしまふので、慎重な対応をお願いしたい。

町 長

- ・原子力は安全第一であり、新規制基準に沿って安全を確保していく。
- ・有事で消防署が原子力施設構内に入る際、勝手に火元に行って放水できないよう協定を結んでいる。また、JAEAは原子力を熟知した自衛消防を持っており、まずは自衛消防が対応する。
- ・大洗町は、東海第2原発の30km圏で避難計画を立てなければならない。県では、当初大洗町民の神栖方面への避難を計画していたが、現在は千葉県への避難を計画している。友好都市が沢山あり、災害応援協定を締結しているので、避難も受けて頂けるようお互い確認をしている。

閉会 20:55